

○「言葉で遊ぼう」に出てくる三つの「言葉遊び」の中で、やってみたいものをえらび、理由とあわせてまとめましょう。

--	--	--	--

○ 次の(1)～(5)の文の——部のひらがなを漢字に直して、ていねいに書きましょう。

(1) 公園で あそぶ。

(1)	ぶ
-----	---

(2) ぜんたいで 話し合う。

(2)	
-----	--

(3) みじかい 言葉。

(3)	い
-----	---

(4) もとの 言葉。

(4)	
-----	--

(5) まったく ちがう 意味。

(5)	く
-----	---

👉 「言葉で遊ぼう」(上P48)でたしかめましょう。

○ 「学校がはじまったら先生に聞きたいこと」「分からなかったこと・心配なこと」を書きましよう。

--

◎ 「段落とその中心をとらえて読む」学習です。
次の「こまを楽しむ」の学習につながります。

○ 「はじめ」の①段落には、「問い」が二つ書かれています。教科書から、「問い」を見つけて、二つ書きましょう。

問い	
言葉遊びには、ほかにどのようなものがあるでしょうか。	どのような楽しさがあるでしょうか。

○ 「中」の②・③・④段落には、①段落の「問い」の「答え」に当たる部分ぶぶんが書かれています。それぞれの段落から、「問い」にたいする「答え」を②段落のように、書き出しましょう。

段落	言葉遊び	楽しさ
②	しゃれ	言葉のもつ音と意味とを組み合わせるといふ楽しさ。
③	回文	回文になっている言葉や文を見つけたり、自分で作ったりする楽しさ。
④	アナグラム	元の言葉と全くちがう意味の言葉を作る楽しさ。

○ 「おわり」の⑤段落には、どんなことが書かれていますか。「中」で書かれた三つの言葉遊びを、どのような言葉を使ってまとめているか考えて書きましよう。

言葉遊びにはいろいろあり、それぞれ楽しさがあること。

👉「このように」という言葉は、どのようなときにつかうか考えてみましょう。

○ 「言葉で遊ぼう」に出てくる三つの「言葉遊び」の中で、やってみたいものをえらび、理由とあわせてまとめましょう。

ぼくは、回文を考えてみたいと思いました。回文は、上から読んでも下から読んでも同じになる言葉や文です。
長い回文を作るのはむずかしいかもしれませんが、でき
たときのうれしさを感じてみたいからです。

○ 次の(1)～(5)の文の——部のひらがなを漢字に直して、ていねいに書きましょう。

(1) 公園で あそぶ。

(1) 遊ぶ

(2) ぜんたいで 話し合う。

(2) 全体

(3) みじかい 言葉。

(3) 短い

(4) もとの 言葉。

(4) 元

(5) まったく ちがう 意味。

(5) 全く

👉 「言葉で遊ぼう」(上P48)でたしかめました。

○ 「学校がはじまったら先生に聞きたいこと」「分からなかったこと・心配なこと」を書きましょう。